

しでがの通信
第 51 号
羽津小 P・T・A
編集発行
発行所 羽津小学校

年頭にあたって

学校と情報化社会

学校長 小林 文 衛

明けましてお目出度うございます。
昭和五十一年は、学校管理棟が完成して、羽津小学校も落着いた。学校環境の出来上る年になります。数年来の懸案が実ること、関係各位に感謝すると共に慶賀に堪えない次第です。

さて、昨年末にPTA文化部の方から情報社会について話題が出されました。テレビ、ラジオ、新聞、書籍、読物等々範囲が広く、社会には勿論、青少年にも非常に大きい影響力があると共に、その受け止め方によって人生を変える場合もある。情報も、科学の進歩と、高度経済成長によって多様化し、氾濫している感じが致しますと共に、価値観が種々と変化して

参りました。

情報社会の一部である書籍について資料を見ますと、一番新しい調査では次のようになっていきます。(昭和四十九年十二月末現在) 新刊書籍

目次	頁
年頭にあたって	1
育ちゆく孫に	4
学校主任制度化問題	5
立哨のおばさんありがとう	6
子どもを塾から学校へ取り戻そう	7
余暇を楽しく	8

総数、二万九百四十点、内一番多いのが文学部門で四千五百一点、続いて社会科学が四千二百九十三点。児童書部門も一千二百九十六点に及んでいます。児童書の価格は平均五百九十六円九十四銭と数は年前の三百円余りに比較出来ない高価になっていきます。学校図書館もこの中から毎年選定しているわけです。

雑誌部門、(月刊、週刊、季刊等) 総数、二千六百九十点、内月刊が一番多く一千九百一点、児童用は八十八点。週刊誌は九十一点で内児童用は八点になっていきます。書籍と雑誌(月刊、週刊もの)の新しい本が出版されていることになり、情報の一部門である書籍類でこの現状です。無限に広がっているとも言える情報を取捨撰択して、処理出来る能力を私共自身も磨くと共に、児童にもその基礎をつけてやらねばなりません。折にふれ社会生活の倫理に基いて指導する必要があることを痛感する次第です。



PTAの目的と 成人教育活動

PTA会長 藤井勝見

不景気で暮れて新しい年が明けました。不況も幸して一欄をにごす機会を得ました。

先づはこんにち迄のPTA活動に大変な御賛同を得まして最大の御協力を戴きました事を心より御礼申し上げます。本年度の会長の任をお預りしてから三分の二が過ぎました新年に当り、振り返り希望ともつかぬ雑感を申し上げます。

永井文相の「助け合い教育」とか聞き慣れぬ言葉ではあるが解説に、時代の進展、社会の変容による要請から現代は生涯とおして学習する必要があることが強く叫ばれ、地域住民と学校がよりよい学校教育、社会教育をつくり出すという見地から、助け合っていく方向で考える「競争を排し」現在の「人心の荒廃」を救うべきだと呼びかけている。そこでPTAとは云うまでもなく「父母と先生が協力して家庭と学校と社会における子どもの健全な成長をはかる」を目的として、会員相互で高め合う活動がPTAにおける成人教育活動と云うこととなります。

すでに本年の各部の活動もほゞ終ろうとしています。その例を二、三掲げてみますと、①今一度

体質の改善を促進する意味でPTAの規約(会則)の審議 ②給食に出される食品の工場見学、給食試食会 ③子どもの健康と公害アンケートの発表 ④バザーに供する為と趣味教養を兼ねた手芸教室 ⑤広報活動「しでの」も従来に例をみない程の出版数で、夫々活発な活動を行ってまいり本年度の成人教育は達成をみようとしています。

今後の課題は運営面での計画のし方、成人教育の立案、例えば学習講演会、座談会など又家庭教育では教育は学校教育任せといつた他力本願を脱皮するうえからの家庭教育の基本的な内容の確立等、各種活動に多くの会員に参加して貰う会のもち方を考えたいものである。

PTA本来の目的が達成されることを念願いたします。

ある風景

副会長 木村仁一

「奥さん、今月も先月同様式千円余り不足してますよ。」と、郵便局員。

「おかしいですネー。これで全部、集金して来たんですが……。不足しているはずはないと思いま

子どもを育てるためには、一層きめ細かい教育が必要であると思えます。そこで、きめ細かい教育といっても色々あると思えますが、どんな社会であつても生きていくための基礎になるものをしっかりと身につけておかななくてはならないものがあると思えます。

きめ細かい教育を

教諭 小塚久美雄

「能力主義教育について」投稿する様にとりご依頼を受け、お引受けはしたものの、よく／＼考えてみると実に大きな問題で、簡単にまとめあげてしまうことが出来ませんし、主旨にそえるかどうかわかりませんが、与えられたスペースを埋める責任だけ果させていたきたいと思います。

近頃「激動する社会」「変ぼうの激しい社会」といったことをよく聞きますが、たしかに世の中は複雑化し、多様化していると思えます。人の一生をよく船旅にたとえられますが、ひとりの人間がこの社会を生きぬいて行くことは、決してなまやさしいものではありません。その社会を子どもたちもこれからいきぬいてゆくのですが、教育は、子どもが成人する十年先二十年先の社会を考え、その社会に適應できる子を育てなくてはならないと思えます。しかし、子どもたちは夫々に性格、能力に違いがあります。その子たちをたゞ一様に教育をすればよいと言うものではない。それ故に教育のむずかしさがあると思えます。

今日の日本の学校教育は、実にすぐれた内容をもっていると思えますが、一人一人違った芽をもつ

す。「それでも、どう計算して見ても、足らないですよ。」

某月十三日、羽津小学校団体保険集金日、午前十時二十分頃の風景である。

しばらくしてから、

「先生、〇〇さんに、連絡するから電話を貸して下さい。」と、先の奥さんの声。十五分程してから、〇〇さん、自転車で学校まで来たらしく、息をはずませながら、会議室に入って来ました。さっそく、当の奥様と郵便局員とで、色話合っておりました。

やがて、二十分程たつてから、結論が出たらしく、局員が、

「私が、先方様に行つて細く説明をして、この分を集金して来ますから、来月からは、この様に集金して下さい。」と、メモを手渡す。

この間、約一時間主婦であれば、家庭での仕事の一番忙しい時間であるはずなのに、団体保険のために努力して下さっている事実を、私は目の前に見て、この努力は全体の一部であり、もつと末端では、当事者でなければ、理解出来ないような苦勞があるのではないかと思ひました。と同時に、この保険の受益者である子ども達に、この親達の苦勞の一部でも、理解させるには、どの様な手段があるのだ

ろうか。これも、PTAの仕事の中に入るのではないだろうかと思ひました。

十一時四十分頃、最後の町代表の方が、保険料を持って見えました。

これで、今月の集金は終わったのだが、また、一方で各町では、来月分の集金が、始まる日でもあるのだ。

外では、放課になったのか、遊具で遊ぶ子ども達の元気な声が、会議室まで聞えて来る。

常任委員会だより

第八回常任委員会が、去る一月十六日(金)に、開かれましたので、次のとおり報告致します。

一、規約改正について
新PTA会則、選挙規定について、内容を検討し、整理する。

二、専門部活動報告
三、学校行事報告

(教頭先生より)

A、新年度入学児の検診を、二月十八日(水)に行なう。

B、授業参観と懇談会を、二月上旬に行なう。



つめこみ教育の弊害

教諭 森昭雄

1. つめこみ教育については、教育(学校教育)の機能には、大別して二つの柱がある。

一つは、全人的教育の側面(人格形成)、もう一つは、文化遺産を効率よく、次代の国民に伝えていく機能である。この二つの機能のうち、とすると、学校教育は建前としては前者を強調しているが、現実には、後者に傾斜して行く傾向が強いようである。よく人間性の回復とか、教育の原点にかえてなどと言われるが、これが言葉だけに終つてしまひ、教材教育の二大機能を統一的につかまえられることなく、一方に傾斜していく。

後者へ傾斜した場合、往々にして、つめこみ教育が発生するわけである。「つめこむ」とは、学習の主体者である児童が、全く受動的の形であまり必要でもない、バラバラの知識を吸収させられると定義していいのではないか。有用の知識(この先、自らの知識体系を發展させ、論理を組立てていくすじ道の中に、整理されて定着する知識)を授けずけることは「つめこみ」ではない。さずけなくてはならない知識は、出来れば、子どもが主体的に学ぶ様にすれば、それにこしたことはないが、そういか

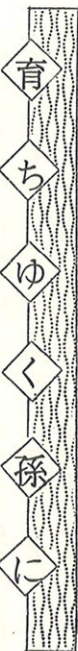
ない時は、教えて覚えさせる必要があると考へている。つめこみ教育とは、さして有用でもない知識を、子どもの主体的な活動を通さず授けていくことを理解したい。

2. つめこみ教育の弊害
イ、有用でもない知識を、教多く知つてゐることを、教師が優秀な児童だと錯覚することが、最大の弊害であると思ふ。教師が「教育とは何か」の確かな認識を持たぬかぎり、この弊害(教師の教育観の確立のない限り)は、取りのぞけないと思ふ。

ロ、児童も、教師と同じ錯覚に落ち入りやすい。バラバラな知識の総量で自分の能力を計るといふ誤りを犯している。知識とは、例えば、理科で言えば、系統的な、脈絡のついた知識であり、子どもがそれを使って、自らの能力を太らせることの出来るものでなくてはならないだろう。

ハ、主体的人間を育てる観点が失なわれるものになつてゐること。能動的な能力態度を、しばしばせしめようといつてよい。

ニ、思考の系列で考へてみると、つめこまれた知識が邪魔になつて、実践に結びつかずに、浅い理解だけ結論づける習慣を作つてしまふこと。追求する能力の開花を萎らせてしまふことなどがある。



祖父母は 瀟過紙の役 一年三組祖母鬼頭和子

孫の教育……。この文字に接し教育等と云う事は、もうとくに私共には関係のない遠い事と思ひ込んでいた私は、はっと目の醒める思いをさせられました。

息子の就学は終戦直後。何もかも戸惑う事ばかりの世事の中に、進駐軍の指示によるカリキュラム教育には、学校も父兄も、只々暗中模索と云った感がありました。設備のとのわかない古い校舎。給食の固いコッペパン……。それに比べ現在の児童達は、どんなにか幸福な事と思ひます。

孫の教育……。私共の家庭では孫の教育に関して、「老人は絶体に口出ししない」事をモットーとして居ります。然し私の場合には別として、一般論として、「老人育ちの三文安」「時代遅れ」等と云う言葉、それ自身がもう既に過去のものとなつて居るのではないのでしょうか。テレビの普及している現今、老人も随分洗脳され、進取的になつて居ります。孫が転んで手を借すお祖父さん、お祖母さんはもう居ない筈です。

「古き皮袋に新らしき酒」、古い歴史の上に積重ねられる、新しい歴史」。そう云つた意味での老人の存在の意義も、些少とも認められたらと思ひます。新しい流れの水には目に見えぬ塵芥も沢山入つて居ります。それを瀟過する事によって、より清浄な飲料水となります。

主体の水はあく迄両親。祖父母は「瀟過紙」の役目になれたらと思ひます。

子ども達の年少の頃、私はどうして聞きたい事、注意しておきたい事などよくお風呂でしました。暖かい湯に身も心もゆつたりとほぐされた中で話し合ひは、耳痛い小言も、案外抵抗なく、受け入れられました。又好き嫌いの激しい孫達が、食事に対して不満、不平を云う場合、「どんなにお母さんが苦心して作つて下さったか」と論じます。親自体が「私が、切角……」と云うよりも側面からの言葉の方がすんなりと孫達に受け取られるようです。之も「瀟過」の一つかと思ひます。

教育に関する等と云つたおこがましい事では決してなく、同一家族の一員として、如何にしたら学校、両親達の教育方針に、正しく

く添い、邪魔にならぬ存在であり得るかという事。その為にも、私共も、もっと現在の教育の在り方について目を開き、勉強する必要があると思ひます。

父親参観日がある様に、祖父母の参観日もうけられ、先生方からも、私共を啓蒙して戴けたらと思ひます。

孫の参観日に 感じたこと

一年二組祖父稀代貞一
校門の傍に立てば「誠実と友愛勤勉と創造」と創立百周年を記念して建てられた校訓の碑文が先づ目にとまる。

校風豊かな、実に百年を閲した歴史と年輪の深さが感じられる。校庭の美しい松、実に見事な素晴らしい枝ぶりであんな立派な松が二十数本も並んでいて、幾多の先輩が慈しみ育てた努力の結果とも云える。

羽津地方は万葉の歌の中にもあるように千数百年も前から栄えた文化の地であり、志氏神社の境内には前方後円墳の古墳などあつて古来より住みよい豊かな土地であつたに違いない。

この学校に昨年より孫がお世話になることになつた感激深い一年生である。小学校教育もそれぞれ変遷を経て今日に及んでいるが、

学校主任制度化 反対運動を

分会長 鏡味隆雄

新年早々、永井文相は「授業についていけない子どもには、教師だけでなく級友も手を貸すべきでないか。」と助け合ひの精神を強調し、競争第一主義を排し助け合ひ教育を提唱しましたが、今更にわれらまでもなく、私たち教職員組合は、詰め込み教育、入試競争の激化、能力主義教育に憂慮し、いろいろの改善要求をしてきました。小学校では以前から「仲良く助け合つて」を重点に指導して居ります。この様な現場の実状や声を聞き入れないで、昨年末から混乱をひきおこしている学校主任制の問題は、教育指導とは別に、特別な意図があるようにうかがわれます。なぜなら、現在でも学校には各主任が民主的に選ばれ能率的に運営されていますが、それを敢えて制度化し、それに手当を四二億円もつかおうというのですから

私たちは、「金詰りだ、賃上げストップだ。」と世間の人々が苦しんでいる時代に、手当をもらうことは、気持ちの上でも、現実的にも有難迷惑なことです。それだけの無理にやりたい金があれば、「学校増設、私学助成、教育費父

母負担軽減、教職員定員増」などに当てる、と運動しているのです。特定主任の制度化は、学校教育の民主的な組織とは全く反し、文部省の号令のもとに、教育委員会、校長、教頭の次にあらたな職制をつくり、これが全て任命制で、上命下服のたての關係で強化して教育を支配しようと思ひついでいると考えられます。

一月十三日、主任制度化の指導通達が出され、「主任はいわゆる中間管理職ではない。」と述べられていますが、衆院文教委員会、諸沢初中教育局長は、「主任も職務上の上司として職務命令をだす権限がある。」と答弁していることではっきりと馬脚をあらわしています。

文部省は、高校増設のために一〇二億円の補助金を要求していますが、これを切り下げられ、ゼロ査定姿勢を示し、また教職員の定員増五カ年計画も足ぶみが決定的な情勢にあり、幼稚園、大学の増設計画ものきなみに切りとられようとしています。そして、国立大学、公立高校の授業料を三倍に引き上げること指導しています。

こうした中で、主任の制度化に対する予算を私たち組合の強い反対にもかかわらず、なにがなんでも計上しようとするところに教育の権力支配、管理体制の危険な意図がくさされています。

父母の皆様方、よくご理解いただき、私たちの運動にご協力ご支援を、また共に運動してください。様お願いしたいと思います。

自転車安全点検に ついて

安全部 森

七月十六日・十八日にかけて、行なわれまして自転車安全点検は、下表の様な結果でした。

一・二年生の自転車は、お兄さんやお姉さんの中古のせいとか、不良か所が目につきます。上級生の新車にワッペンを与え、一・二年生の中古の自転車をいじめて、子ども心を傷つけるわけにもいきませんので、不良か所の少ない人には、忠告を与えて、ワッペンを渡しました。三か所以上の人には、修理してくる様に申し渡しました。

今後は、下級生の自転車に対して、特に御父兄の方は、子どもと一緒によく安全点検をして、悪いところを修理しておいて下さい。ワッペンをもらえない一・二年生の子どもの見るのは、心が痛みます。

私の小学校の時は片仮名でハタ、タコで始つて居る。その後ハナ、ハトになつたが国定教科書と云うものは、実に窮屈な本であつたとつくづく感じられる。戦争中は国民学校であり、何かゲートル臭い戦時教育の枠に無理に押し込められたような形が続いて、戦後はまた百八十年度変つた民主的教育になつて今日に及んでいる。先生方も実にやり難かつたことだらう。

先日学習参観に出席してみた。一人一人の先生方の自主性が生かされて、例えば机の並べ方一つでもそれぞれ違つて居る。

全部の児童を対照として誰でも答えられるようにしていることも嬉しいことであり、先生と児童と和氣藹々と勉強している様子は微笑ましい。戦前には無かつたことである。

私達の頃には黒板の横には必ず竹の鞭が置いてあつた。これは図を差す為のものであるが同時に嫉妬の為のものであつた。

悪たれの私など何度かこの鞭のご厄介になつたものである。今はそんなスバル的な躰方はしないよう、のびのびと教育されている。

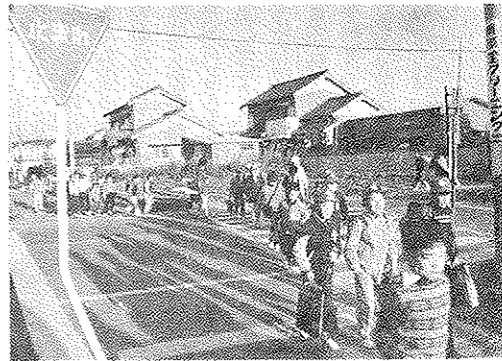
兎に角創立百周年の歴史を持つ学校で校訓の精神を旨とした教育がなされることは羨しい限りである。

	検 査 点		合 格	受 検 者 数	不 良 所			無 名 前
	自分	自 車			ブレーキ	反 射 器	ペ ー ル	
1 年	9 2	5 1	8	1 5 1	1	6	1 1	5
2 年	9 7	5 2	7	1 5 6	0	2	9	4
3 年	9 8	4 1	2	1 4 1	1	3	4	4
4 年	9 6	5 2	8	1 5 6	2	1	7	7
5 年	1 2 8	4 1	3	1 7 2	1	0	2	2
6 年	9 5	2 9	1	1 2 5	0	1	2	3
計	6 0 6	2 6 6	2 9	9 0 1	5	1 3	3 5	2 5

はなよめさんを も と む

飼育室では、ちゃぼが、奥さんに先立たれ、やもめ暮りで、淋しがつて居ります。どなたか、はなよめさんを、お世話いただけませんか。そうすれば、ちゃぼも、第二の人生ならぬ、鳥生をたのしむことが出来るでしょう。

立哨のおばさん ありがとう



旗もちおばさん

六一二 長 広 洋 子

「おはようございます。」
 みんなで声をそろえて 朝のあいさつ。
 「おはよう。気をつけていきなさい。」と言う。
 朝のあいさつがないと、一日がはじまったような気がしない。
 毎日、このようにして、一日がはじまる。
 考えてみれば、たいへんなことなのだ。毎朝早くから、こうして

みんなの安全を見守って下さる。それに引きかえ、私たちは、ただらと列を乱したり、おしゃべりをして、間をあけたり……。ほんとに、おばさんに感謝しなければならぬ。
 もし、おばさんたちがいなくなったら

「あぶない。キーー。」
 一発で交通事故にあってしまう。それだけおばさんたちには、お世話になっている。
 その反対に、それだけ私たちは、気をつけて道を歩いていないといふことになる。

横断歩道があっても、「少しぐらいいいや。」という心の油断で、道を横ぎり、おもいがけぬことがおきてしまう。ふみ切りでも、そのことは言える。
 それだけ私たちは、道路を気をつけて歩いていない。そういうところを、すばやくみつけて、

「危ないよ。」
 と、注意してくれるおばさんたち。ひとりひとりが気をつけられれば、交通事故なんてあわない。
 でも、ほんの一時の油断。その油断によって、不幸なめにあってしまう。

その不幸を交通事故から、守ってくれるおばさんたち。
 ほんとうに、ありがとう。
 そして、これからも、私たちがずっと見守っていかたい。

一言の感謝を

六一二 沢井美佐子

登校中の私達の、安全を守っていただくため、おじさん、おばさん方にお世話になりはじめて三年。愛称「緑のおばさん」
 私の住む町は、学校から国道一号线を経たところであり、通学路のいちばんの難所は、やはりこの国道。

ここに立っていてくださるおじさん、おばさんを見ると、気の毒に思います。雨の日も、雪の日も、いそがしい朝早くから、冬は、こごえる思いをして、私達の交通整理をしてくださるからです。
 通学中の責任の重い六年生の私にとって、「緑のおばさん」の存在は、たいへんありがたいものです。

以前、私が用事があって、集合におくれ、追いつこうと必死でした。国道の近くまでくると、「緑のおばさん」が、みんなを渡らせて、帰りがけたところに出合いました。それでも、おばさんは、親切に国道までもどりと、わざわざ渡して見送ってくださいました。



たった一人の私のために、後もどりをしてくださったおばさんへの感謝の気持ちがあえませんが、「緑のおばさん」は、私達が考えているような簡単な役目ではないはず。私達のために、いろいろ気を遣ってくださっているに、ちがいないと。

そんなおじさん、おばさん方に、「ありがとう。」
 と、一言、言うことが、大切だと思います。

また、おじさん、おばさん方に感謝の真心を、一言でも伝えることができたなら、すばらしい事と思ふのです。

子どもを塾から

学校へ取り戻そう

親も自信を持って家庭教育を

松岡純子

変なタイトルが出ましたが、これはどちらも、私の願いと理想です。
 教育の場は学校、家庭、社会の三つ以外に存在はしないはず。しかるに今の塾や家庭教師の繁栄は何でしょう。これは教育の蛇道(混迷を続ける教育界の落し子)です。

子どもは学校で一生懸命学び、ほっぺにあかぎれを作り、手にもやけを作って飛び回って遊んでいた、私達の子どもの頃を懐しく思い、今の子を憐れに思います。
 これは子どもの自然の姿ではなく、無理に型で押しおにぎりの様です。型からはずせば手の中で壊れそうです。

自分の手で固く握ったおにぎりは一つ一つ形が違って歪んでも、しっかりと固く個性が有ります。子どもは実にすばらしい力を持っているのに、今の学校教育では、その力のごく一部分しか引き出されていらないのでは、授業の貧しさが塾や家庭教師を生む結果になったのではないだろうか。これは単に子どもの不幸だけではない。

く私達の未来を閉ざしてしまう事に等しい、学校教育は豊かな未来を作る機能を充分発揮して欲しい。先生、塾から子どもを取り戻して下さい。
 又私達母親は、子捨て、子殺し、といった極端な風潮だけをいうのではなくその一つの現れとして、子どもを育てる事に自信をなくしてしまつた母親の増加が目立ちます。(自分も含めて)

共働きであるという事を口実に自ら教育を忌避する母親にならない様、働きに出ていられる失われた時間を短かい残り時間で有効に密度の高い子どもとの接触を増し、情緒の安定した、豊かな心の子に育てたいと同時に、母親の虚栄や打算に根ざした自己中心主義ではなく子どもの能力に応じた学校に進ませ、出来るだけの飛躍を子どもに願いたい。きっとこれは負けおしみに聞こえるでしょうけれど「コレデイイノダ」と自分に納得させています。
 PTAを本来の姿に戻そうと云われて十年余もたちましたのに、いまだ戦後の財政援助団体として

の性格が強く、期待の薄りも有る事は事実です。
 今こそPTAが子どもを自然の姿に戻すべき時が来ているのではないだろうか、任意加入のPTAでもいいと思います。その気の有る人が少数でも力強く団結し、教育本来の理想に目を向け、戦後民主教育の原動力となった教師のエネルギーと、母親大運動会の源流となり、高校増設運動の推進力ともなった母親達のエネルギーをもう一度現在のPTAに向ける事は可能だと思います。

話のピュッフェ

正月の話題から

K 生

正月に久しぶりに、兄弟が顔を合わせる時、お互いに子どもの学校の事、入学試験の話に熱が入る。
 東京、大阪から来た大学入試、高校入試を今春に控えた親は、それぞれ顔色も冴えない。

だれもが、今の熟依存を続けていて良いのかと疑問をもつ。私の周りをみても、いくつもの熱や、おけいこに毎日通い、いつか遊ぶのだからかと、心配になる小学生が何人かいる。そんな中で、うちの子は「塾には行かせな

い」の親の方針を幸いと、毎日元気に遊びまわっている。
 私達の子どもの頃は、塾などなかった。毎日学校で習うことを、きちんと勉強していれば、それで充分であった。世の中は進み、学校で学ばなければならぬ事も増えて来た。

しかし、大人になるには、そんなに難しいことを、学校で時間内に、覚え切れない程のことを、学ばなければならぬのだからか。人間の豊かな常識ある社会人を育てるには、一般社会で余り使われないような、難しいことを覚えるより、子どもの頃をもっと、大らかに、伸びのびと過ごすことの方が、大切ではないかと思う。
 学校の先生方、教育内容を決める文部省の偉いお役人をお願いしたい。教育内容を早く再検討して本来の学校教育の姿にもどしていただきたい。わが家の末娘が、小学生になるまで、まだ数年ある。娘が学校に行く頃には、子ども達が伸びのびと遊べるようにしたいものである。



玉暇と手作り

手作りは楽し

加藤 教子

私の余暇といっても、まだ／＼手のかゝる三人の子どもをかゝえて、中々まとまった時間ももてない毎日ですが、それでも切れ／＼の時間を利用して、趣味と実益をかねた手作りを私なりに楽しんでいます。

手作りといっても、服作りやリフォーム・手芸一般・子ども達の床屋まで何でも面白くやっていますが、特に今は子ども達が食べ盛りという事、多くの食品添加物から子どもを少しでも守れたらと、出来るだけ自然食品に力を入れています。出来映えはどうであれ、味の良さ、新鮮さ、純粋この上なく、買ったものとはくらべられませんが。

今は作ろうとすれば何でも本に出ているし、男の子でも結構面白がって手伝ってくれるので、大した苦勞せずして皆から喜ばれるというわけです。

先日も友人宅へ行った時、おいしい手打ちうどんを御馳走になり早速家に帰って作ってみました所

大好評。友人には私の得意なパンやアイスクリーム、マヨネーズ等の作り方を教えてあげました。友人はそれを又沢山の知人に教え、とても喜ばれたとか。このように友達同志、又結婚して離ればなれになっていく姉妹が、時々、手作りの情報を交換したり、本や新聞からヒントを得てめづらしいものを自分の手作りのレパートリーに加えていくのも楽しいものです。

一つ皆さんの知恵を持ちよって手作りの会でもどうでしょうか？

児童会風景

前期会長 秋山なおみ

私が会長になる前は、「みんなが願っていることを要求していくような児童会にしよう。」と、思っています。

でも、一年生に学校のことを教える説明会や、ラジオ体操などの月々の目標のとりくみだけで精いっぱい。球技大会も中途半ばに終わってしまいました。

しかし、感想文文集が私たち児童の手で作れたことは、たいへんよかったです。

今、こうして思いおこすと、後悔だらけの半期だったと思っています。

ただ一つ言えることは、一生けんめいやったということです。

後期会長 下倉俊介

後期会長に立候補する時、ぼくは「学校新聞の発行」を皆の前で約束しました。今「学校新聞創刊号」を手にして、ぼくはうれしくなりません。学校の行事や児童会の連絡、「私たちの声」などがあって、とても立派な新聞が出来たと思います。この新聞が全校生徒に読まれて、何十号、何百号と続いていくことを願っています。

三学期も始まり、学校生活も残り少なくなってきましたが、これからマラソン大会、サッカー大会をやって寒い中で身体をきたえ、ゴミなし運動もやって、もっと楽しく、もっと美しい学校にしていきたいと思っています。

ですくさいど

☆年の始めにあたって、みなさまより、いろいろな所感をいただきました。

教育界では、文相が「助け合い教育を」という年頭アピールを發表され、競争第一主義を排除しよう、よびかけられ、又、先に、自民党文教部会では、「できる生徒」重視の能力中心主義の、いわゆる「有用私案」を全面的に採用した事を發表している。

この様な案に對み、現場の先生

はもとより、われわれ親は、いろいろと、考えさせられる。

そこで、教育は、いかにあるべきか親が自信のもてる方向づけを、先生方におねがいしました。

☆PTAは、学校及び現場の先生方や給食職員をよく理解し、働き易い職場を作ることに協力する事に、やぶさかであってはならないと思います。何か、障礙があればそれを取り除く事に協力し、充分に教育に専念していただける様にしたいものです。

その意味で、日教組の先生に、今やって居られる、内容を披瀝していただきました。

☆又児童会では、どの様な事を実行しているか、これも、児童丈ではどうしても実現出来ない問題には、協力してやると云った話し合いをとるべきではないでしょうか。

☆父親、母親に引きつづき、祖母の方に、お忙しい中を、お孫さんの教育について、ご投稿いただきました。どうもありがとうございました。

☆大寒に入り、日本列島は俄かに氷づけとなりました。どうか、お風邪など、召しません様に。

☆冒頭カット 龍 秋山
タイトルデザイン 秋山
志氏神社古墳出土品
カット 児童作品